

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社 じょうてつケアサービス.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JiyosyoCd=0170502769-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=0170502769-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 入居者様の尊厳を大切にし、日々の生活をその人らしく、安心した生活を送って頂ける様支援し、ご家族や地域住民の皆様と支え合う関係に努めています。
・ 四季の自然環境の良い住宅街に建て、四季折々の草花を觀賞しながらの散歩や菜園等屋外活動が広く行える環境である。中庭に東屋を設置し入居者様、地域の々と共に憩いの場として使用して頂ける様支援している。
・ 町内会よりお誘い頂ける町内行事への参加や、ホーム主催の夏祭りを町内会様の参加協力の元、開催しており、地域の方々が多く訪れ交流を深める事によって訪問しやすい施設に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、清田区役所の西方向の閑静な住宅地に位置し、一階に通所介護事業所を併設した2階建て2ユニットのグループホームである。近隣に公園や菜園があり、また、中庭にはあずまやと花壇や菜園もあり、利用者の散歩や町内との交流の場となっている。法人は道内でも老舗の企業で、平成14年から介護事業を始め、現在では10数箇所の介護事業所を運営しており、長年培った経営のノウハウを活かした事業展開で、地域住民から信頼が熱い。職員は法人理念と7つのケア理念を日々斉唱し、実践に繋げている。夜間は2ユニットながら3名体制でケアに当り、避難訓練は年4回実施するなど、医療連携も充実しており、毎年看取りを経験し、チームでの支援に努めている。区内事業所同士の連携活動が良好な地域に於いて今後も地域密着型サービスの拠点として尽力を期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 compare staff/user satisfaction and facility usage.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念6項目の中から毎日1つ目標に取り上げて理念の実践を行っている。	法人グループ内共通の理念と7項目のケア理念があり、ユニット毎に毎月の目標を決めてケアに取り組んでいる。また、事業所内に掲示し、職員のネームカードに記載して携帯しており、申し送り時に唱和して、共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(町内の総会・植樹マスの植花)へ参加している。行事の際は町内会へ声を掛けている。隣の公園にて夏祭りを開催し、地域の方々にお手伝いと参加を呼びかけ交流を行っている。	町内行事にはいつも参加しており、特に隣接する公園で行う夏祭りや町内バーベキュー大会などは町内と合同で開催しており、利用者を含めた事業所全体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてケアの方針、実践内容や現在の状況報告を行っている。入居者様と一緒に町内会行事に参加し交流を持っている。近隣の方より認知症の相談を受ける事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日常生活・行事等のスライドショーと共にケアへの取り組み・評価・状況の報告を行っている。地域の方より認知症の実体験のお話や意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括センター担当者や町内会役員、家族が参加して、定期的で開催している。また、開催場所が各ユニットのリビング内で行うため、利用者の生活状況も把握でき、委員からの意見が活発にあり、サービスの向上に反映している。	運営推進会議は定期的開催され、活発に意見が出され充実したものとなっている。また会議議事録が複数枚に渡り、委員や家族が把握しづらい為、今後は見やすい要約した議事録となるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市保険課担当の方へ質問・相談・助言を頂いている。	運営推進会議の報告や入居者の相談など区役所担当者と連携している。また、グループホーム連絡会や管理者連絡会に参加して、清田区の関係機関との連携に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の玄関の施錠は行っていない。ユニットの入口・居室の施錠もしていない。社内・外部研修に参加し内部研修にて報告、身体拘束を学んでいる。	身体拘束をしないことのマニュアルを整備し、カンファレンスの中での職員への勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束が止む負えず必要な場合はケアプランで説明し、本人家族に同意を得てケアに臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・会議などで虐待についての話し合いを持ち、職員同士が常に確認しながらケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・外部研修への参加にて学ぶ機会を持っている。現在当ユニットでは制度を利用している方はいないが、ご家族より質問があった際は役所などへ確認し返答をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時本社職員も同席し説明を行う。疑問や家族の思いを聞き入れての変更・理解・納得を図っている。介護保険法改定時など、文書をご家族に郵送、口頭での説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望をお受けする為のアンケートボックスの設置。来館時は日常の報告と共に個人記録の開示を行っている。運営推進会議にてご意見を頂き、内容・検討の記録を郵送している。	ホーム便りを毎月発行し、家族へ配布して利用者の生活状況を報告している。玄関には意見箱を設置して、家族には家族会開催時にアンケート調査をして、また年1回の家族会開催の時に家族の意見を聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや個人面談で職員の意見・要望等聞く機会を設けている。また、職員の意見を反映出来る様に、代表者出席の管理者会議・リーダー会議・ワーキング委員会で検討し反映させている。	毎月ユニット会議やリーダー会議を開催しており、法人グループ内では、管理者会議を開催し職員の意見や要望を聞く機会としている。また、年1回以上管理者と職員の個人面談を実施して、個人個人の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力・実績を考慮し、また管理者の意見を取り入れ、準社員や正社員の登用、リーダーへの昇格に努めている。また、外部研修への参加を積極的に図り、向上心が持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内(新人、スタッフ、ケアプラン)外部研修・資格取得のための研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同区内の管理者連絡会への参加。勉強会・区民センターにて交流会、花笠音頭の発表、他事業所主催の夏祭りを通して、同業者との交流を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問等による、本人の要望・不安とされていること事を傾聴。ご家族との関係を大切に、ホーム入居による疎外感を持つ事無く安心して頂ける支援を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護は本人だけでなく、ご家族が安心して日常を過ごす為の物である事をお伝えし、いつまでも来館でき、話しやすい雰囲気作りに努めている。不安・要望を傾聴し、返答出来る関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との話し合いの中で生活基礎シートを作成し、今必要とする支援をスタッフ間で話し合い対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況・体調を考慮し、家事等出来る事をスタッフと一緒にいき、家族の一員としての関係を築ける様支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問していただき、日々の生活を詳細にお伝えする。夏祭りや敬老会やクリスマス会にご家族も参加され入居者様と楽しまれている。ご家族との外出・外泊等一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族対応による外出・外泊にて帰省される方もいらっしゃる。お孫様・ひ孫様を連れて来館される方、幼馴染のご友人様、誕生会等、ご本人にとって大切な方々がいつでも来館出来る様支援している。	家族と一緒に墓参りや趣味の会の発表会に参加したり、元の住まいの知人との交流など馴染み人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係を把握し、孤立しない様スタッフの関わりを行う。集団で出来る、レク・体操・家事を行い、共同で出来る事を通じ、支え合えている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も病院受診に必要な情報の提供を行っている。その際ご本人やご家族の状況を聞かせて頂き、利用終了後も相談できる場がある安心感を持って頂ける様支援できる体制を整えている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望・意向の把握に努め、困難な方には日々の関りによって行動や表情の変化や態度から対応に努めている。	利用者に職員の担当を決めて、個々の記録を行い、利用者の意向の把握に努めている。また、家族からも利用者の過去の暮らしの状況を聞き取るなど本人本位を目標としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族より情報を伺う他、日々の関り、新たに気づいた点をスタッフ間の共有にて把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調・心身状態によって一日の過ごし方の工夫や、常に新しい力の発見に努め職員間の情報の交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング・定期的なアセスメントとは別に新たな課題を発見した際は、そのケアのあり方を確認し、ご本人・ご家族・スタッフ・医師・本社看護師と話し合い、介護計画に活かしている。	月2回の医師の訪問診療や看護師の週1回の訪問看護の意見を聞き、本人や家族の要望を聞きながら、月1回の全体会議で話し合い介護計画を作成している。また、モニタリングは毎月行っており、終末期は毎月計画を見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活で、どの様な行動が有り・どの様なケアを行い・結果がどうであったかを職員間で共有し実践を行い、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に際し、ユニット内だけではなく、併設している別ユニット・デイサービスに協力の依頼(送迎車の使用)。個別レクによる喫茶店への外出を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例となっている行事や、清掃週間、植花等にスタッフと参加し御自身で花を植えられ地域の方々と楽しめる。区内の催し物にも積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族と話し合い、かかりつけ医の確認を行う。月2回の訪問診療を受け、緊急時の対応は往診や病院受診にて対応している。	かかりつけ医は入居前からを継続しており、受診は家族が同行している。緊急時などは職員が同行して受診している。また、提携医で月2回の訪問診療と週1回の訪問看護があり、緊急時の対応で連携しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の本社訪問看護師による健康管理を行い、変化や状況を伝え指示を受ける事が出来る。電話による状況報告も行き、併設しているデイサービスの看護師へ相談する事が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換、入院中の定期的面会を行い状況を把握している。その際ホームからご家族へ連絡を行っている。退院時はご本人、ご家族、病院関係者とホームで生活するために気を付ける点や対応について相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合の指針の同意書を頂いている。入居者様が重度化した際にはご家族・担当医・ユニットとの話し合いの場を持ち、終末期の意向確認、支援について協議している。	入居時の契約の際に重度化した場合の説明を行い同意を得ている。また、重度化した際は、本人や家族、主治医・看護師、事業所全体で都度打合せを行いながらチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、社内・外部研修の参加により訓練を行っている。内部研修にて勉強を行い、事故急変マニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の火災訓練で夜間想定訓練を行っている。階段には避難用滑り台の設置、非難救急袋を用意する。地域との協力体制を構築している。	夜間想定3回を含め、年4回の火災避難訓練を消防署立会いの元実施している。緊急連絡網は町内会役員へも繋がる仕組みで、マニュアルや避難救急袋、発電機や食材の備蓄も整備し、地域との協力体制を築いている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様へ尊敬の念を持ち、人格の尊重に努めている。特に排泄時の声掛けやケアには配慮し対応している。	高齢者への尊敬の念や人格の尊重、プライバシーの確保の呼びかけや声掛けについては、外部研修会や内部研修で行っているが、カンファレンスでも毎回指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を言える様な声掛け、環境作りに努めており、意思表示困難な入居者様へは表情の変化等から汲み取り、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の業務や決まり事を優先せず、入居者様を最優先とする。入居者様状況やペースに合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の交換時、季節に合った会話をしながら、その季節に合った服選びや身だしなみが出る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ペースに合わせながら、食事の準備、後片付けを積極的に手伝っていただき、味見を一緒にして頂く等を行っている。職員と一緒に楽しく会話をしながら食事を行う。	管理栄養士によるグループ全体の共通した献立で、好みの希望も随時要望できる。利用者は職員と一緒に食事の準備や食器拭きなど行っており、町内での焼き肉大会や毎月の行事食も楽しみとなるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量を記録しており、摂取量の変化を比較する事が出来る。水分摂取の少ない方にはゼリー等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛け・介助にてケアを行っている。義歯洗浄も毎日行い、誤嚥性肺炎の予防にも気を付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パターンや習慣を活かし、時間ごとの声掛け・トイレ誘導を行う。排泄の失敗が減り、パットの数を減らす事ができている。入居者様の力を活かした支援を行う。	利用者の個別のチェック表を作成して、個人個人の排泄パターンを把握している。利用者の表情をや仕草を観察しながら、トイレへ誘導して、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳・水分摂取や食べ物の工夫を行い、運動等による自然排便を心掛け、腹部マッサージ等を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一週間に最低2回以上の入浴を行い、拒否のある方にはタイミングを見ながらの声掛け・日を改めたり、場合によっては夕方入浴対応を行っている。	浴槽は浴室の真ん中にあり、各方向から介助ができる仕様で、仲の良い方は二人で入浴する事もある。基本的に週2回以上の入浴だが、利用者の体調を考慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況・希望にて昼寝を取り入れ、夜間眠れない方にはリビングで一緒に過ごし、飲み物を差しあげる等臨機応変に対応し、安心されるまで支援を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の必要性、目的や理由、副作用やリスクを医師に確認し職員間で認識理解を行っている。また、夕の申し送り時に追加の薬(便秘薬など)入居者の状況に応じて対応している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・歌謡・レクを取り入れ毎日楽しく暮らせる様努め、生活歴を活かした食事の用意・縫い物等をスタッフと行き、張りのある日常を送って頂ける様支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は公園や畑等へ散歩に出かけ、スーパーやコンビニ等での買い物や外出レクも行う。食べたい物を選んで頂き楽しみを持って頂けるよう対応を行っている。	隣接の公園や畑に日常的に散歩している。夏祭りや焼き肉大会など町内会合同の行事にも参加して、地域の方との交流も行っている。外出行事も毎月あり、家族会での行事やホテルやレストランでの食事など希望に沿った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同意のもと少額のお金を持っている方もおり、何処にしまったか忘れた方には居室を一緒に探す事をご家族に了承頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話・手紙はいつでも出来る様に話し合いを行っている。入居者様は絵手紙等を作成し年賀状等を出したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保つ為毎日の掃除、1日2回の消毒を行っている。汚れた所は都度消毒清掃を行う。季節に合わせた装飾や入居者様が作成した物を飾り、居心地良く過ごせる様に工夫している。	共用空間は明るさや風通しもよく、リビングも広くゆったりしており、季節の飾り物や花などが飾られ季節感を感じる工夫がある。リビングには4畳半程のこ上がりがあり、家庭的な雰囲気を感じる造りである。また、階段には緊急避難用のスロープが設置され、緊急避難時には有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ・食卓テーブルが有り、自分の好きな所で過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具や生活用品、仏壇や入居前より使用しているイスを持ち込み読書等をされ過ごしている。ご本人が居心地良く過ごせる事を第一としている。	居室には収納スペースがあり、整理整頓に有効に用いられている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参しており、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は車椅子が通れる様になっており、自走出来る事を考えている。居室入り口は横扉、ご本人の写真を貼りご自身の部屋と分かる様に工夫をしている。		